



広報 —ご家族皆さんでご覧ください—

ふたば



5

災害版No.24 5月号
2013



表紙写真：おめでとう！1年生

平成25年5月1日発行 編集・発行 / 双葉町埼玉支所 秘書広報課

7 124-131

16 しがあり



3月21日招集の平成25年双葉町議会第一回定期例会において、伊澤史朗町長が施政方針を述べ、25年度における各種事業の取り組みなどを明らかにしました。その概要をお知らせします。

町長施政方針

3月10日に行われました双葉町長選挙におきましては、議員の皆さまをはじめ、多くの町民の皆さま方が温かいご支援とご厚情をいただきまして、当選の栄誉を賜り、ここに深く感謝を申し上げるものであります。

今、ここに登壇いたしまして、改めて町政を預かる者の責任の重さを痛感しているところでございます。

このたびの選挙を通じて多くの市民の皆さん、団体等の皆さまの考え方を伺うことができました。

今、双葉町は東日本大震災並びに東京電力福島第一原子力発電所事故から2年が経ちました。巨大地震と大津波、原発事故との複合災害により、双葉町再生の道は険しく、まだ長い年月がかかるものと思われます。

震災後において亡くなられた方々が本年2月末現在で192人、行方不明者は1人、このうち不自由な避難生活で亡くなつた災害関連死の方が3月8日現在で、112人であります。今も全町民が県内外で避難生活を強いられています。

3月10日に行われました双葉町長選挙におきましては、議員の皆さまをはじめ、多くの町民の皆さま方が温かいご支援とご厚情をいただきまして、当選の栄誉を賜り、ここに深く感謝を申し上げるものであります。

今、ここに登壇いたしまして、改めて町政を預かる者の責任の重さを痛感しているところでございます。

このたびの選挙を通じて多くの町民の皆さん、団体等の皆さまの考え方を伺うことができました。

今、双葉町は東日本大震災並びに東京電力福島第一原子力発電所事故から2年が経ちました。巨大地震と大津波、原発事故との複合災害により、双葉町再生の道は険しく、まだ長い年月がかかるものと思われます。

そして、目の前の諸課題を解決していくためには、常に町民の皆さまの声に耳を傾け、町民の側に立った行政が最も重要なことを肝に銘じております。

なにとぞ、議員各位におかれましては、災害復興と確実な町政運営が

正であること、分かりやすい町政であることを常に心がけ、町の復興並びに町政運営には、職員と一丸となって全力で取り組む決意であります。

町長就任後わずか10日余りであります、差し迫った課題が山積していることを実感し、判断すべき課題の多さに身を引き締めているところであります。

就任して間もない私ですが、町政運営に対する私の基本的な考えを述べさせていただきます。私は、選挙期間を通じ公約でもあります、町民の皆さまが幸せに安全で安心して暮らし続けられるよう努力していく所存であります。

その一つが、町民の方々が全国の各市町村に避難されており、いろいろと支障が出ているようでありますので、少しでも解決できるよう、各市町村と連携強化を図つてまいります。



▲伊澤町長初登庁

不明者は1人、このうち不自由な避難生活で亡くなつた災害関連死の方が3月8日現在で、112人であります。今も全町民が県内外で避難生活を強いられています。

改めて犠牲となられた皆さまのご冥福をお祈りしますとともに、被災された皆さまに対し衷心よりお見舞いを申し上げます。

これから町づくりの思いを改めて検証し、双葉町の復興を加速させるため、町政に反映すべきものについては、積極的に取り入れてまいりたいと考えております。私にとりまして、町政運営は初めてであります。が、町民が主役であること、公平公正であること、分かりやすい町政であることなどを常に心がけ、町の復興並びに町政運営には、職員と一丸となつて全力で取り組む決意であります。

町長就任後わずか10日余りであります、差し迫った課題が山積していることを実感し、判断すべき課題の多さに身を引き締めているところであります。

そして、目の前の諸課題を解決していくためには、常に町民の皆さまの声に耳を傾け、町民の側に立った行政が最も重要なことを肝に銘じております。

また、避難区域再編の一時賠償実現に向けて国と協議をしてまいります。次に仮の町、町外コミュニティを整備し、住環境の充実に努めてまいります。そして、町立幼稚園、小学校、中学校の再開を含め、早急に教育環境を整えてまいりたいと思いま

す。



▲平成25年入学式

さらに、原子力発電所立地町村の合議事項は、双葉郡内各町村と連携し協議してまいります。双葉町復興のため、議員の皆さんから協力を頂き、町民の立場や考えはそれぞれ異なるかと思われますが、美しく豊かな「ふたば」を取り戻したい思いは皆、同じはずです。心の

分断や対立を抱いていては前進はありません。強い絆と苦難に負けない強い精神で、将来を担う子供たちのために全身全霊を注いでまいります。

職員各位には、災害業務と通常業務を遂行するため日夜努力されます。中には健康を害している職員も見受けられます。町の運営には、職員力が基本であります。なんといっても健康が第一でありますので、自己管理に十分留意して業務にあたつても健康が第一であります。また、常にコスト意識を持ち、サービス向上を目指して、町民からの信頼と期待に応えられる組織になるよう、その能力を最大限發揮してもらいたいと考えております。

町民の皆さまから町政運営の負託を受けたことを厳格に受け止めて、災害復興から豊かなまちづくりに全力で取り組んでまいります。



一般会計予算

平成25年度双葉町一般会計歳入歳出予算の総額は、45億円で、前年度比3億800万円、7・35パーセントの増となります。

歳 入

町 税

町税は、12億4,935万7千円で、前年度比3億7,435万2千円の増額を見込んでおります。町民税の個人分が2,115万6千円の増額、固定資産税が3億5,480万円の増額となっております。

地方交付税

地方交付税は、7億690万円で、うち震災復興分を含む特別交付税は、5億690万円で、前年度比4億5,690万円の増額を見込んでおります。

歳 出

町 債

町債は、臨時財政対策債1億8,970万円、前年度比960万円の減額を見込んでおります。

議 会 費

議会費は、前年度比113万2千円増の6,187万5千円となります。「議員だより」の印刷製本費などを増額いたしました。

国庫支出金

国庫支出金は、11億897万4千円で、民生費国庫負担金や電源立地対策交付金の増などにより、前

年度比6,270万5千円の増額。県支出手は、3億5,837万2千円で、国民健康保険基盤安定県負担金の増や電源立地地域対策交付金の減など、合わせて、前年度比1億5,315万6千円の減額を見込んでおります。

年度比6,270万5千円の増額。県支出手は、3億5,837万2千円で、国民健康保険基盤安定県負担金の増や電源立地地域対策交付金の減など、合わせて、前年度比1億5,315万6千円の減額を見込んでおります。

総 務 費

総務費は、前年度比3億9,969万7千円増の11億2,500万6千

千円となります。ふるさと絆通信作成業務委託料や双葉町復興事業計画策定業務委託料、いわき市に整備を進めております双葉町役場仮庁舎の整備及び維持管理に係る経費、参議院議員通常選挙執行経費などを計上いたしました。

◆民 生 費

民生費は、前年度比6,924万2千円増の10億7,898万3千円となります。国民健康保険や介護保険、後期高齢者医療特別会計への繰出金、緊急通報装置貸与事業委託料、仮設住宅等自治会運営補助金などを増額し、また、新たに全国に避難されている町民の皆さまの心身の健康保持をはかるための健康支援事業委託料や、高齢者の福祉増進をはかるための高齢者等サポート拠点設置事業委託料などを計上いたしました。

◆農林水産業費

農林水産業費は、前年度比1,256万9千円減の1億1,113万7千円となります。新たに水田農業改革支援事業に要する経費を計上いたしました。

◆商 工 費

商工費は、前年度比10万5千円減の4,441万円となります。双葉町商工会振興補助金を増額いたしました。

◆土 木 費

土木費は、前年度比2,243万4千円減の3億6,733万8千円となります。新たに町道等被災箇所調査委託料を計上いたしました。



▲平成25年 成人式

平成25年度も緊急雇用事業を実施してまいります。

となりますが、避難生活を余儀なくされている児児・児童生徒にかかる幼稚園就園奨励費補助金や要保護及び準要保護児童生徒就学援助費、また、コミュニティ活動を推進するための婦人学級や生活学級の開催経費、盆踊り事業補助金、成人式実行委員会助成金などを計上しております。

政調整基金や公用施設事業運営基金などへの積み立てを行つてまいります。

予備費は、前年度比1,821万円増の4,714万1千円となります。

特別会計予算

◆國民健康保険

國民健康保険特別会計は、歳入歳出予算総額13億3,201万1千円で、前年度比3億800万4千円の増となります。

歳入は、療養給付費等負担金や財政調整交付金などの国庫支出金や、保険基盤安定費に係る一般会計繰入金などが増となっています。

歳出では、一般被保険者療養給付費などの保険給付費や共同事業拠出金などが増となっています。

公債費は、前年度比5,073万9千円減の3億4,188万9千円となります。

◆公有林整備事業

公有林整備事業特別会計は、歳入歳出予算総額592万9千円で、前年度比14万7千円の減となります。

◆労 動 費

労働費は、前年度比6万4千円減の7,710万3千円となります。

◆教 育 費

教育費は、前年度比2,196万9千円減の1億7,773万2千円

◆諸支出金

諸支出金は、前年度比6,922万8千円増の6億6,484万円で、将来の行政需要に対応するため、財

◆公共下水道事業

予算は、歳入歳出予算総額3億3,509万8千円で、前年度比505万9千円の減となります。

歳出のうち公債費は、前年度比499万円減の3億2,405万8千円を計上しております。

◆工業団地造成事業

工業団地造成事業特別会計は、歳入歳出予算総額13万1千円で、前年度比1千円の増となります。

◆介護保険

介護保険特別会計は、歳入歳出予算総額7億2,639万2千円で前年度比1億570万5千円の増となります。

歳入は、介護給付費に係る国庫支出金や一般会計からの繰入金などが増となっております。

歳出では、居宅介護サービス給付費や施設介護サービス給付費等の保険給付費などが増となっております。歳入は、一般会計からの事務費及後期高齢者医療

び保険基盤安定繰入金が主なものであります。

歳出は後期高齢者医療広域連合納付金が主なものであります。

今後の町政運営にあたりましては、議会並びに町民の皆さまとの対話を重視し、町振興のために邁進したいと考えておりますのでご協力・ご支援をお願いします。

以上、申し述べて施策の方針といいたします。

東日本大震災に係る応急仮設住宅の供与期間の延長について

福島県から県内の東日本大震災に係る応急仮設住宅の供与期間が1年延長され、平成27年3月までとなる通知がありましたのでお知らせします。

なお、民間借上げ住宅も同様に期間が延長されることになります。

福島県内の借上げ住宅の新規受付について

町では、借り上げ住宅の新規受付について福島県と協議をしながら期間を延長しています。

現在は当面の間受け付けるとの見解から5月中に入居できる申し出について受け付けを行っています。

なお、住み替えについてはやむをえない事情がある場合に限り1度だけ認められます。

やむをえない事情とは、福島県外の応急仮設住宅（民間借上げ住宅等を含む 以下同様）から県内の応急仮設住宅に住替える場合や、県内の応急仮設住宅から県内の応急仮設住宅への住み替えのうち、就学、新規就労のため住み替える場合に限られます。（住環境改善や世帯分離は認められません）

【問い合わせ先】 埼玉支所 総務課 ☎ 0480-73-6880(代)

平成25年度

■ 軽自動車納税通知書について

平成25年度の軽自動車納税通知書を発送いたしますので、お手元に届きましたら車両番号などの内容をご確認ください。

現金により納付される方は、今回よりコンビニエンスストアで納付できます。

なお、**納期限は5月31日(金)です。**

■ 減免について

※平成25年4月1日現在、避難指示区域内に放置された車両については、減免の対象となります。また、普通自動車・軽自動車で被災車両として永久抹消登録がされたものに代わる軽自動車を

取得した場合は、平成25年度までの軽自動車税が非課税となりますので、該当する方には「軽自動車減免申請書」を送付いたしますので、下記までお問い合わせください。

※減免となった車両については、事務処理後に納税証明書を送付いたします。車検期間が間近かになっている場合は、お早目にご連絡ください。

※平成23年3月12日以降に登録された車両を除く原付二輪・農耕用車両などの「双葉町」ナンバー及び250CC以下のバイクについては、すでに減免として取り扱っております。

【問い合わせ先】

埼玉支所 税務課 ☎ 0480-73-7686

福島支所 住民生活班

☎ 024-973-8189



行政報告



12月定例会以降の行政経過についてご報告申し上げます

東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故から2カ年が経過いたしました。

これまで全国から町にお寄せいたりしておりますご支援とご協力に感謝を申し上げます。

また、震災さらには避難中に亡くなられた方々の無念を思い起こし、改めてご冥福をお祈り申し上げます。

町は、いま様々な課題を抱えております。今後、町民の皆さま方の生活再建のための賠償はもとより住宅や医療、健康対策をはじめ、一日も早い本町の復興・復旧に向けて決意を新たにして取り組む覚悟であります。これら課題の克服のためには、議会の皆さまのご理解とご協力がなければ到底なし得ないと考えております。

今後とも、どうかご指導をよろしくお願い申し上げます。

1月5日は、郡山市のホテルにおいて、「平成25年 双葉町成人式」を行いました。東日本大震災と原子力発電所の事故で全国に避難され、毎日辛い思いで避難生活を強いられている中、54名の新成人の皆さまが出席されました。

多数の来賓の方々を前にして、新

成人者からは、ふるさとの復興に向けた意見が出されました。



▲ダルマ市

1月12、13日の両日、いわき市南台応急仮設住宅内では、双葉町の伝統祭事の「ダルマ市」が、双葉町消防団第二分団員の有志の方々でつくる「夢ふたば人」によって行われました。「古里の誇りを絶やさず、未来につなごう」と、ダルマ販売や多彩な催しが開催されました。

1月19日から21日まで、いわき市をはじめ4方部において町政懇談会を実施してまいりました。懇談会の中心として、区域見直しと損害賠償仮の町、中間貯蔵施設など、たくさんの意見、要望をいただきました。

昨年の東日本大震災及び原子力災害から2年が過ぎてしまい、町民の皆さまには先の見えない避難生活で大変ご苦労をされており、皆さまの要望にできるだけ早く応えられるよう、政府等に対して強く求めてまいりたいと思います。



▲町政懇談会（いわき市会場）

これからも、町民パワーを發揮していただき、町の伝統祭事が継承できるように、町としても支援をしてまいります。

1月19日から21日まで、いわき市をはじめ4方部において町政懇談会を実施してまいりました。懇談会の中心として、区域見直しと損害賠償仮の町、中間貯蔵施設など、たくさんの意見、要望をいただきました。

昨年の東日本大震災及び原子力災害から2年が過ぎてしまい、町民の皆さまには先の見えない避難生活で大変ご苦労をされており、皆さまの要望にできるだけ早く応えられるよう、政府等に対して強く求めてまいりたいと思います。

町内の復旧に向けた取組について
は、警戒区域内への公益及び一時帰宅に伴う、立入地区への連絡道路等の確保のため、福田道・羽鳥線ほか5路線の応急補修工事を実施しております。

また、余震や降雨雪、強風等の影響で一般町道等の路面確認のため、2月5日及び3月4日に調査を実施する等、定期的な巡回を行い、立入バス、自家用車等通行車両の安全の確保に努めています。

現在実施中の7巡目の一時帰宅につきましては、これまでと同様に事業者などの帶同も可能なマイカー及びバスでの立入りを実施しております。

6巡目までの累計実績数は、1万583世帯、2万4、441人の方が一時帰宅を行っております。

また、今回の7巡目の実績については、2月23日現在では、マイカーでの立入りが260世帯、636人の方が立ち入りを行っております。

今年度の一時帰宅は、3月24日で終了となります。本部の方針では、新年度の第8巡目は5月頃になるものと思われます。

東日本大震災に関する災害弔慰金につきましては、これまで平成23年度と平成24年度の合計で112件

3億3、500万円をお支払いしております。

また、双葉町地内の放射線量を町独自で測定を依頼し、その結果を、福島県の放射線量集計システムを利用して公表を行っております。

今後も引き続き、各機関の測定結果並びに町独自の測定結果により町内の汚染状況の把握に努めてまいりますので、今後も関係者各位のご協力をお願いするところであります。

役場仮庁舎の建築につきましては、2月20日に建築物確認済証の交付を受けて、着工をいたしました。建物構造は、軽量鉄骨造、2階建て、建築面積は、694・76m²、延床面積は、1,372・42m²であり、現在は、準備工事を経て本工事を行つており、6月上旬の完成を目指しております。

また、今回の7巡目の実績については、去る3月2日には、東日本大震災から2周年を迎えるにあたり、いまだに警戒区域である双葉町の下条地内において、津波に被災され亡くなられたご遺族の方々をはじめ、双葉町議会議員、消防、警察関係者の皆さまのご参加をいただき、双葉町追憶式として慰靈碑の除幕式並びに追悼式を行い、復興への誓いを新たにしたところであります。

39歳以下の方の甲状腺検査についてですが、双葉町では、全国に避難されている39歳以下の町民を対象として、医療機関の全国組織に検査を委託しております。その組織の実施可能な加入医療機関で、昨年12月から検査を実施しております。

ホールボディカウンターによる町民の方の内部被ばく検査についてであります。3月8日現在で2、498名の方が受検されております。内訳ですが、福島県が一昨年から実施している検査で1、503名、双葉町が協定を結んでいるひらた中央病院での検査で208名、双葉町が



▲双葉町追想式

健康手帳につきましては、福島第一原発事故で大気中に放出された放射性物質による被ばくと、健康被害との因果関係を明らかにするための大切な記録を残すこと目的としております。平成23年3月11日現在双葉町に住所を有した方に2月末から順次発送を行い、3月中旬に発送を完了したところです。



▲健康手帳

している検査で 787名の方が受検されております。双葉町では現在、随時検査の受け付けと検査を行つております。



▲新型バスによるホールボディ検査

双葉町議会へ説明を経て、国主催による住民説明会を開催して頂き、県内6市をはじめ、述べ10カ所951名の出席をいたしました。数多くの意見を頂戴いたしました。

原子力事故からの生活再建の難しさと賠償責任について、今後も東京電力株式会社はもとより、国の各方面へ強く訴えてまいりますので、よろしくご支援をお願いするものであります。

.....

双葉町復興まちづくり計画案

いては、その策定に向けて、双葉町復興まちづくり委員会において、精力的な審議が進められております。

委員会は、これまで9回開催され、

双葉町復興まちづくり計画の基本的な考え方、「仮の町」を中心とした当面の生活拠点の在り方、双葉町の帰還に向けた条件や町の土地の復旧・復興の在り方、双葉町の歴史・伝統・文化の継承や現在及び将来にわたる避難指示区域並びに警戒区域の見直しにつきましては、先月中旬に見直し案が提示され、これを受けて双葉町議会への説明、行政区長会での説明を経て、国主催による住民説明会を開催して頂き、県内6市をはじめ、述べ10カ所951名の出席をいたしました。

「7000人の復興会議」における双葉町住民意向調査の結果と、

「7000人の復興会議」における双葉町住民意向調査の結果と、

備区域となつております両竹地区・浜野地区につきましては、第2回目の説明会を3月16日に開催させていただきました。

なお、見直し案で避難指示解除準備区域となつております両竹地区・浜野地区につきましては、第2回目の説明会を3月16日に開催させていただきました。

委員会には、5月頃を目途に、計画案のとりまとめをいただきたいと考えおり、委員会から町長に対し

て復興まちづくり計画案の報告があつたのち、町議会や町民の皆様のご意見を伺った上で、双葉町復興まちづくり計画を決定したいと考えております。



▲第10回復興まちづくり委員会(4月3日)

調査結果の主なものでは、まず生活再建の場所を選択するのに重視する条件として、「放射線量が十分に低いこと」、「希望する形態の住宅が確保されること」が回答者のそれぞれ約4割を占めております。

また、仮の町に対する考え方として、「仮の町に移り住みたい」が全体の約7%、「現時点では判断できないが、仮の町の具体的な姿が示されれば移り住むことを検討したい」とする方が全体の約半数いる一方で、「仮の町ができるても仮の町に住むつもりはない」方も、約4割おられました。

さらに、双葉町への帰還については、「自宅の補修・再建、インフラの復旧が終わればすぐに戻りたい」「条件が整えば戻りたい」をあわせて、帰還の意向を持つ方が回答者の

画面に反映できるよう整理・分析をしているところです。その結果を踏まえて、委員会において計画案のとりまとめの審議に入つていただきたいと考えております。

昨年12月20日から本年1月8日に

約4割、「現時点ではまだ判断がつかない」が約3割となる一方で、「そもそも双葉町へ戻りたいとは思わない」とする回答も約3割ありました。

復興、まちづくり計画案の策定に当たり、町民の皆さまの意向が十分に反映された計画とするため、「7000人の復興会議」を昨年8月から実施してきました。ワークショッピング形式の会議、インターネット会議、まちづくりマイノートの配布という3つの手法を用いて、丁寧に町民の意見・提案の吸い上げに努めたところ、1月までに延べ1,110名の町民から、6,563件の意見をいたしました。復興への思いから、今後住みたい場所の考え方、コミュニティの維持に向けた考え方など、単なるアンケート調査では得られない多様で示唆に富む町民の率直な意見・提案が得られました。

「7000人の復興会議」で得られた意見・提案は、先ほどの住民意向調査とあわせて、整理・分析をしているところであり、今後、これらの町民の意向・意見・提案を踏まえ、復興まちづくり委員会において、双葉町復興まちづくり計画案の取りまとめをいただきたいと考えております。

「7000人の復興会議」を昨年8月から実施してきました。ワークショッピング形式の会議、インターネット会議、まちづくりマイノートの配布という3つの手法を用いて、丁寧に町民の意見・提案の吸い上げに努めたところ、1月までに延べ1,110名の町民から、6,563件の意見をいたしました。復興への思いから、今後住みたい場所の考え方、コミュニティの維持に向けた考え方など、単なるアンケート調査では得られない多様で示唆に富む町民の率直な意見・提案が得られました。

「7000人の復興会議」で得られた意見・提案は、先ほどの住民意向調査とあわせて、整理・分析をしているところであり、今後、これらの町民の意向・意見・提案を踏まえ、復興まちづくり委員会において、双葉町復興まちづくり計画案の取りまとめをいただきたいと考えております。

原子力損害賠償については、昨年7月の新しい賠償基準の公表以降、双葉郡8町村が連携して、国・東京電力に対し、財物賠償の早期実施を求めてまいりました。2月26日には、土地、建物に関する賠償請求手続きの一環として、町から土地・建物の固定資産税の納稅義務者に対し固定資産課税台帳登録事項明細書を送付しました。納稅義務者がこの明細書を東京電力に直接送付することにより、東京電力による賠償額の算定が可能になり、具体的な賠償請求手続きが開始されることとなります。

最後に本定例会に提案いたしました、案件について申し上げます。

条例の制定が9件、条例の一部改正が7件、平成24年度一般会計補正予算及び特別会計補正予算が5件、平成25年度一般会計予算及び特別会計予算が7件、諮問が1件、合わせて29件となりますので、慎重なるご審議をいただき、議決をたまわりますようお願い申し上げて行政報告といたします。



▲平成25年第1回議会定例会

しあわせ金婚夫婦 表彰の申し込みはお早めに！

— 第27回しあわせ金婚夫婦表彰 —

福島県老人クラブ連合会では、夫婦がともに助け合い、力を合わせてよき家庭を築き、社会に貢献してきたご労苦に対し、金婚式（結婚50年）を迎えた夫婦に「しあわせ金婚夫婦」として表彰状と記念品をお送りしています。申し込みは、原則として自己申告による届け出となっています。

右の要件に該当する方をお早めにお申し込みください。

【申し込み先】双葉町老人クラブ連合会事務局
☎0480-70-0057

○対象となるご夫婦

昭和38年に結婚されたご夫婦。及びそれ以前に結婚され、自己申告漏れで金婚表彰を授与されなかったご夫婦。

○申し込み締め切り

7月19日(金)



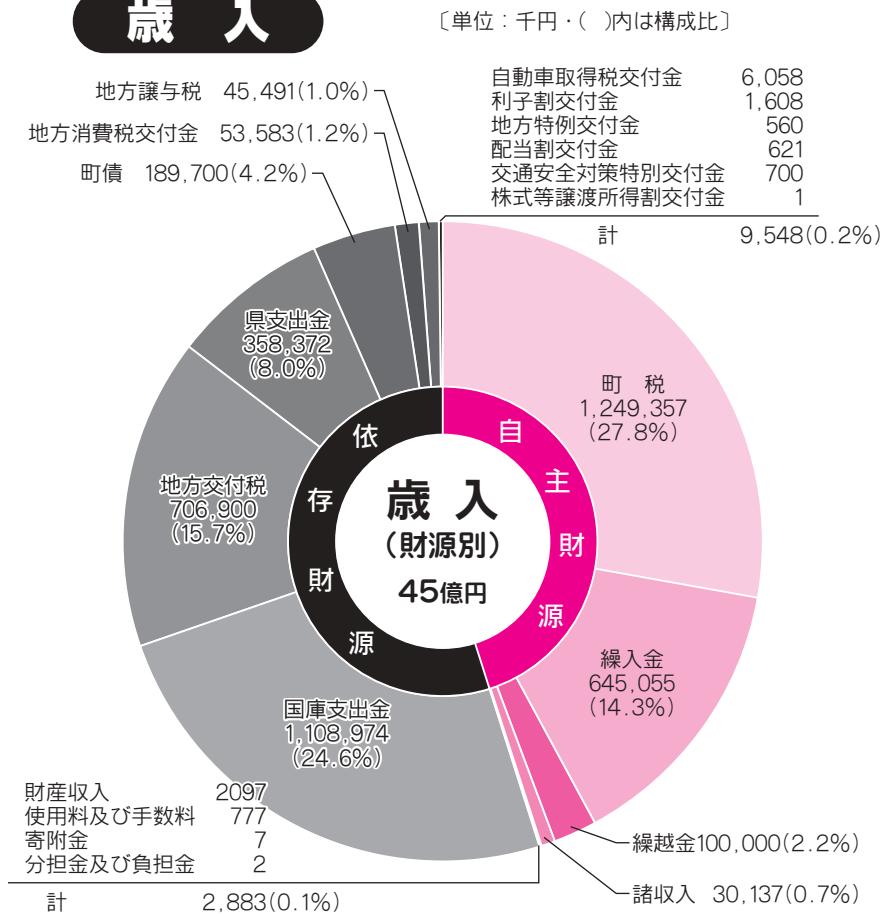
平成25年度

当初一般会計予算額

45億円

一般会計予算

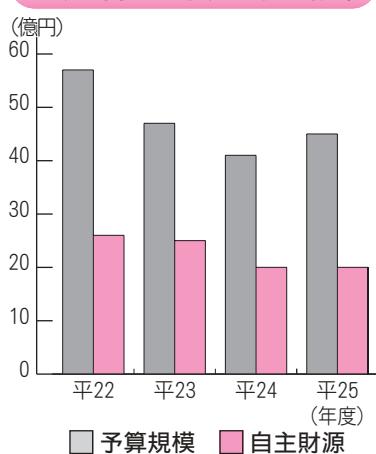
歳 入



平成25年度の双葉町の当初予算が決まりました。一般会計当初予算額は、前年度対比3億800万円(7・35%)増の45億円となりました。国民健康保険、公共下水道事業、介護保険などの6特別会計が24億6,341万円となり、一般会計と特別会計の総額では、69億6,341万円となりました。当初予算の概要についてお知らせします。

歳出

一般会計当初予算規模の推移



総務費は、ふるさと絆通信作成事業や双葉町復興事業計画策定事業、いわき市に整備を進めています双葉町役場仮庁舎整備事業などに係る経費を計上したため、東日本大震災復興基金などからの繰り入れ6億4,505万5千円(前年度比37・3%減)を計上し、各種事業の財源として活用することとしました。また、町債は、臨時財政対策債の発行額は1億8,970万円で、前年度に比べて960万円(4・8%)の減となりました。

町税は、前年度に比べ3億7,435万2千円(42・8%)の増となりました。町民税の個人分や固定資産税の増を見込んでおります。地方交付税は、特別交付税(震災復興分)の増などにより4億1,990万円の増、国庫支出金も民生費国庫支出金や電源立地地域対策交付金の増などにより6,270万5千円(6・0%)の増となりました。県支出金は国民健康保険基盤安定県負担金の増や電源立地地域対策交付金の減など、合わせて1億5,315万6千円(29・9%)の減となりました。

繰入金は、公用施設事業運営基金や東日本大震災復興基金などからの繰り入れ6億4,505万5千円(前年度比37・3%減)を計上し、各種事業の財源として活用することとしました。また、町債は、臨時財政対策債の発行額は1億8,970万円で、前年度に比べて960万円(4・8%)の減となりました。

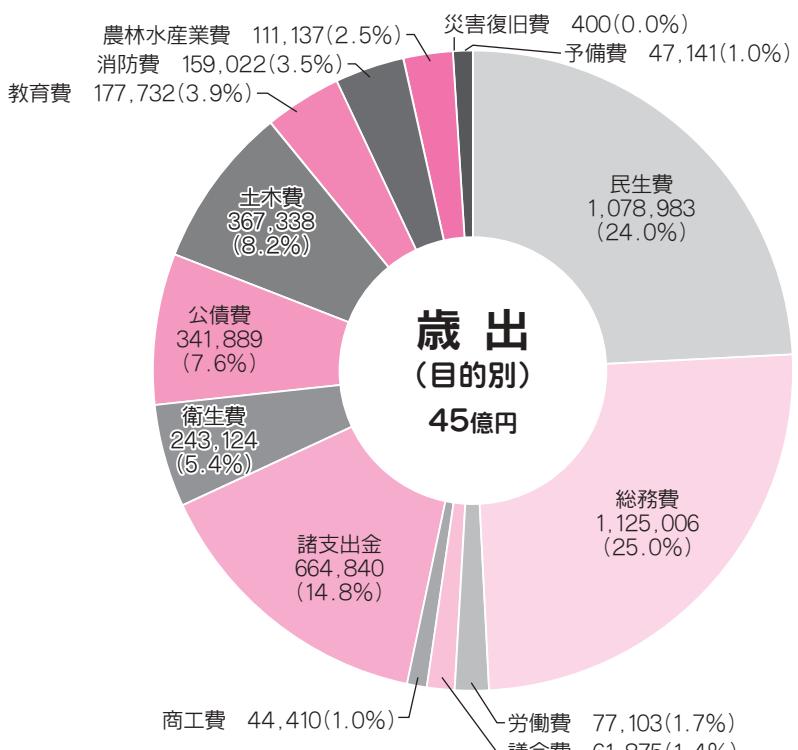
労働費には緊急雇用創出基金事業に係る経費を引き続き計上しました。農林水産業費には、水田農業改革支援事業を、土木費には町道等被災箇所調査事業に係る経費を新たに計上しました。教育費は2,196万9千円(11・0%)の減となりましたが、前年度と同じく幼稚園就園奨励費や要保護及び準要保護児童生徒就学援助費、また、コミュニティ活動を推進するための婦人学級や健康生活学級の開催経費、成人式に要する経費などを計上しました。

一般会計の主な事業

事業名	(単位:千円)
ホームページ再構築業務委託料	5,000
ふるさと絆通信作成業務委託料	3,600
双葉町復興事業計画策定業務委託料	50,000
地域包括支援センター事業委託料	32,747
生活支援・介護予防事業委託料	53,348
健康支援事業委託料	25,815
高齢者等サポート拠点設置事業委託料	7,500
尿による内部被ばく検査業務委託料	60,000
甲状腺検査業務委託料	18,600
緊急雇用創出基金事業	77,103
町道等被災箇所調査委託料	4,000
幼稚園就園奨励費補助金	20,186
要保護及び準要保護児童・生徒就学援助費	28,851

歳出

〔単位:千円・()内は構成比〕

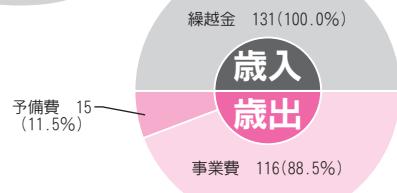


特別会計予算

〔単位:千円・()内は構成比〕

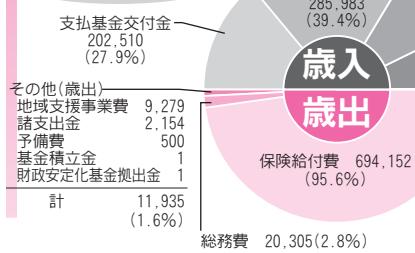
工業団地造成事業

131 千円



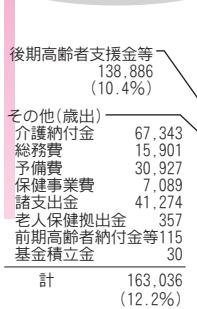
介護保険

726,392千円



国民健康保険

1,332,011千円



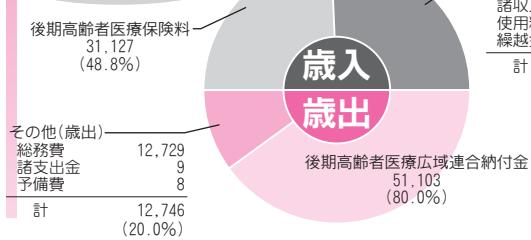
公有林整備事業

5,929千円



後期高齢者医療

63,849千円



公共下水道事業

335,098千円



双葉町立小・中学校

児童生徒の卒業並びに入学を祝う会



4月13日、全国に避難している子どもたちの節目の成長を祝い、双葉町の児童・生徒であることの自覚と郷土を愛する心、困難に負けず、夢と希望を持つて力強く生きていく力を育てることを目的として、児童・生徒の卒業並びに入学を祝う会がいわき市内のホテルにおいて開催されました。

本年度小学校への新入学を迎えた児童の内13人、中学校に入学した生徒21人、高校に進学した生徒23人の計57人、保護者の方々99人が避難先から出席しました。

第一部では、初めに岡村隆夫双葉町教育委員長が「皆さんが全国から元気に祝う会に出席してくれたことを大変うれしく思います。保護者の皆さんとともにこの喜びを分かち合いたい」とあいさつ。伊澤史朗双葉町長が「双葉町で育ち育んできたことを胸に、困難に負けず、夢と希望を持って力強く生きてほしい」と祝辞述べました。続いて佐々木清一双葉町議会議長が祝辞を述べられました。

生徒を代表して、中学生代表の佐藤彩乃さん、高校生代表の見目海斗くんが卒業、入学を迎えて思うことをテーマとした作文を朗読しました。



▲代表者に記念品の贈呈

第二部は、卒業、入学を祝って、岩本久人双葉町議会副議長の発声により、ジュースで乾杯したのち、テーブルを囲んで歓談が行われました。続いて、埼玉県に拠点を置く自衛隊体育学校から、ロンドンオリンピックボクシング男子銅メダリストの清水聰選手が特別ゲストとして招待され、子どもたちの質問に答えたり、一緒に記念撮影やサインに応じたりして交流を行い、「夢を失わずに前に向いて歩こう」と呼びかけました。また、卓球女子銀メダリストの福原愛選手のビデオレターが上映されました。

最後に各学校の校歌を全員で元気に歌つて、再会を誓い合い、会が閉じられました。

祝う会終了後も名残り惜しそうに口笛で語り合う姿が見られました。

作文発表

— 卒業、入学を迎えて
思うこと —



今までの思い出
そしてこれから

白河第一中学校 1年

佐藤 彩乃

私は小学校の陸上部で長距離、駅伝、走り幅跳びに挑戦してきました。練習が苦しく辛い時もありましたが、大会で練習の成果が出せたときはとてもうれしかったです。何事にも挑戦し、努力を続ける事の大切さを学ぶことができました。

4月8日に中学校の入学式がありました。私は、小学校を卒業して中学校という大きなステージに立ちました。少し大きめな中学校の制服を着た時は、恥ずかしさと羞しさでいっぱいでした。また、中学校生活での期待と不安もありました。中学校でも小学校の時のようにたくさんの方達を作り、楽しい中学校生活を送つていきたいと思います。

双葉町の友達と離れ離れになつたことはとっても悲しいことです。が、白河市でも新しい友達がたくさん増え、みんなと仲良くこの2年間を過ごすことができました。

私は小学校の陸上部で長距離、駅伝、走り幅跳びに挑戦してきました。練習が苦しく辛い時もありましたが、大会で練習の成果が出せたときはとてもうれしかったです。何事にも挑戦し、努力を続ける事の大切さを学ぶことができました。

最後に、震災から2年が過ぎました。双葉町の方は今も避難生活を送っていますが、私も前を向いてがんばりますので皆さんも明るく前を向いてがんばってください。

2011年の3月11日に発生した東日本大震災やその後に起こった原発事故の影響でぼくたちはばらばらになりました。そのばらばらになってしまった友達と年

に一度会える機会がありました。それは、再会の集いです。久しぶりに友達と会い、短い時間でしたが友達と過ごすことができました。それがとてもうれしかったです。再会の集いや今回の会を開いてくれ、ぼくたちを支えてくれた教育委員会の方々に感謝したいです。

また、ぼくは避難先でもたくさんの方々に支えられて成長することができました。避難所で生活していた時は、県内外から来てくれたボランティアの方々や学校では先生方やたくさんの友達に支えられました。今まで支えてくれた方々には本当に感謝をしたいです。

双葉町のことが気になつてました。ニュースなどで双葉町を見るたび、まだまだ復興は進んでいないなと思いまして。放電線量はまだ高く、安

感謝を胸に



福島工業高等専門学校 物質工学科 1年 見目 海斗

ぼくたちは、3年前の春、中学校に入学しました。この

ままこの中学校でこの友達と先生方と過ごすものだと思ったいました。そして本来であれば、今年、双葉中学校を卒業するはずでした。しかし、それは実現しませんでした。

2011年の3月11日に発生した東日本大震災やその後に起こった原発事故の影響でぼくたちはばらばらになりました。そのばらばらになってしまった友達と年

に一度会える機会がありました。それは、再会の集いです。久しぶりに友達と会い、短い時間でしたが友達と過ごすことができました。それがとてもうれしかったです。再会の集いや今回の会を開いてくれ、ぼくたちを支えてくれた教育委員会の方々に感謝したいです。

また、ぼくは避難先でもたくさんの方々に支えられて成長することができました。避難所で生活していた時は、県内外から来てくれたボランティアの方々や学校では先生方やたくさんの友達に支えられました。今まで支えてくれた方々には本当に感謝をしたいです。

双葉町のことが気になつています。双葉町を見るたび、まだまだ復興は進んでいないなと思いまして。放電線量はまだ高く、安

心して人が暮らせるような状況ではありません。しかし、周囲の人たちの支えがあつからこそです。その感謝の気持ちを忘れず、未来に向かって一步ずつ進んでいきたいと思います。

最後に、震災から2年が過ぎました。双葉町の方は今も避難生活を送っていますが、私も前を向いてがんばりますので皆さんも明るく前を向いてがんばってください。

次はぼくたちが双葉町の復興を進めていかなければなりません。双葉町がいち早く復興できるようにがんばりたいです。そして復興した双葉町が前よりも良い町になることを願っています。



また一つ思い出を心に刻みました。

恩師や友達との再会、そしてオリンピック選手とのふれあい



新小学1年生



▲福原愛選手からのビデオレター



▲各学校の校歌を歌いました。



新中学1年生



新高校1年生

福島・沖縄伝統芸能文化交流プログラム

いちゃりば祭！ハートビートフェスタ



▲標葉せんだん太鼓保存会の皆さんによる演奏



▲公民館和太鼓教室生と沖縄子供太鼓の合同演奏

今回、沖縄県のいのちの未来プロジェクト「ふちゅくるん」の招きにより「いちゃりば祭！ハートビートフェスタ」に出演するため、公民館和太鼓教室の子ども達と標葉せんだん太鼓保存会のメンバー総勢30人で沖縄に行つてきました。

「ふちゅくるん」は双葉町はもとより、福島県から避難している方々の支援団体であり、今回の訪問では、和太鼓教室の子ども達も我々せんだん太鼓のメンバーも大変お世話になりました。

今回のプロジェクトのきっかけは、双葉町より避難している町民の方より、「せんだん太鼓の音が聴きたい」との要望があり約8ヶ月の準備期間を経て実現したものでした。

今後も和太鼓教室の子ども達と共にせんだん太鼓を「双葉町の音」として残していくことを考えております。

標葉せんだん太鼓保存会 会長 横山 久勝

3月23日から26日までの4日間

わたり、沖縄県において伝統芸能文化交流事業が行われました。双葉町からは標葉せんだん太鼓保存会（横山久勝会長）の皆さんと公民館和太鼓教室生合わせて30人が招待され、太鼓の演奏を披露しました。また、福島県から沖縄県に避難している人と地元の人々とさまざまな交流が行されました。

この事業は被災児童や県内避難者の支援をしている団体「いのちの未来プロジェクトふちゅくるん（伊東隆博代表）」が企画したものです。

議会主催の「第34回沖縄子ども祭りin恩納村」が開催され、沖縄で結成された和太鼓演舞団員25人と公民館和太鼓教室生、標葉せんだん太鼓保存会の皆さん総勢約50人で、横山

24日は沖縄県子ども会育成連絡協議会主催の「第34回沖縄子ども祭りin恩納村」が開催され、沖縄で結成された和太鼓演舞団員25人と公民館和太鼓教室生、標葉せんだん太鼓、公民館和太鼓教室生の演奏も行われました。終演後には地元の琉球料理や芋煮を囲んで、出演者と来場者の友情交流会が開催されました。



避難者に郷里の伝統文化の大切さやお互いの絆を再確認する機会を提供し、被災地域における伝統芸能の営みを風化させないように沖縄県民と避難者の相互理解と共生のあり方について、地域社会における実施可能なスキームを追及することを目的として開催されました。

会長が作曲した「天響」を演奏しました。壮大な力強い演奏に会場からは大きな拍手が送られました。

参加した子ども達から感想をお寄せいただきました

まだまだぼくは意味がわからないけど、大人になつたらわかるように勉強していきたいと思いました。

強行スケジュールで、あまり観光ができませんでしたが、普天間基地の展望台に登ってオスプレイを見ました。とても怖かったけど、写真をいっぱい撮ってきました。

また、美ら海水族館は大きくて感動しました。思い出にカメのぬいぐるみを買いました。

沖縄は蒸し暑かったけど、海が青くてきれいでした。今度はゆっくり行って海に入って泳ぎたいです。

**埼玉県入間郡毛呂山町立毛呂山小学校5年
遠藤悠太郎（新山）**

ぼくは、公民館和太鼓教室、標葉せんだん太鼓のメンバーとして3月23日から26日まで演奏のため沖縄県に行ってきました。

今回の太鼓は沖縄県の方と沖縄に避難している方々との交流を兼ねて3月24日にうるま市石川会館にて「いちゃりば祭！ハートビートフェスタ」で大勢のお客様の前で力強く感動的な演奏を披露することができました。

遠く離れてしまった仲間と再会することができ、また機会があれば沖縄の文化に触れながら演奏したいです。

双葉町の標葉せんだん太鼓を守り立派な和太鼓奏者にぼくは必ずなります。

**福島県立本宮高等学校1年
西山 竜生（新山）**

ぼくは、せんだん太鼓のメンバーと沖縄へ行きました。初めて飛行機の乗つて楽しかったです。

2日目に、太鼓の演奏をしました。沖縄子供太鼓のチームと一緒に「天響」を演奏しました。ずっと太鼓をやっていなかったので、間違えないかと心配だったけど、ちゃんと叩けて良かったです。

3日目の夜に沖縄の子ども太鼓のメンバーも何人か参加してバーベキューをしました。その時に根本くんとゲームをしたりして友達になりました。すごく楽しかったので、また会いに行きたいです。

**埼玉県加須市立騎西小学校6年
木村 弘太（三字）**

今回の体験は、私にとって大きなものだった。2年ぶりに握ったバチは重かった。2、3分で手が痛くなってしまい「双葉にいた時は、こんなことはなかったのに」と悔しい思いだった。私は久しぶりにせんだん太鼓の人たちと再会し、演奏を聴いてまた太鼓をやりたいと思った。

沖縄の人の温かい心と暖かい気候に触れ、これから始まる高校生活を明るく、何事にも積極的に取り組んでいきたいと思った。

**福島県立会津高等学校1年
佐藤 琴花（下条）**

今回、ぼくは沖縄に招待され2年ぶりに太鼓仲間と再会することができました。そして、またみんなと一緒に楽しく太鼓を演奏することができました。確かに以前のように音の強弱、テンポ、ポーズなどはうまく決まりませんでしたが、心を一つにして叩けたと思います。

ぼくは、また昔のメンバーでいつか双葉町で演奏したいと強く思いました。そして、再び太鼓で演奏する楽しさを味わう機会をくれた沖縄の人々に心から感謝いたします。

**国学院大学栃木高等学校1年
伊澤 嵐（新山）**





長塚一行政区 総会・交流会

例年より早い桜前線の便りが届き始めた3月22日、長塚一行政区総会・交流会が郡山市内のホテルで開催されました。県内各地はもとより東京、埼玉、仙台などから52人の方々が参加しました。

初めに木幡智清区長より、2年ぶりの総会の意義と今後とも町との連携を密にした前向きな活動をしたいとのあいさつがありました。続いて全員で東日本大震災や震災後の関連死により亡くなられた方々へ、黙とうが捧げられました。

次に、岩元善一副区長の議事進行により事業報告、経過報告について、続いて平成23、24年度の会計報告と監査結果報告、これらの行政区のあり方などについて審議されました。特にこれから行政区のあり方については、参加して良かったと思われる会となるよう、また、よりたくさんの方が参加できるような方法など活発な意見が交わされました。

交流会では、食事をとりながら近況を報告し合い、「なつかしい顔とお会いできて感激で涙が出ました」「30年後には必ず双葉の地に帰るぞ」など苦しい避難生活を吹き飛ばすような笑いの中で元気の出る情報交換が活発に行われました。

交流会での感激の余韻を残しながら、また来年の再会を約束して、それぞれの避難先へと帰つていきました。

双葉農業普及所からのお知らせ

双葉農業普及所は、毎月県内5カ所で、避難されている農家の皆さんとの相談窓口を設置しております。

窓口では、相談者の現在の状況を聞き取らせていただきながら、皆さんが必要な情報、資金・事業の紹介などをわかりやすくご説明いたしますので、お気軽にお越しください。

5月の日程は右記のとおりです。

※町村問わず最寄りの窓口にお越しください。

※右記以降の日程は随時お知らせいたします。

双葉農業普及所ブログ「**ふたばの農業通信**」に掲載しておりますので、ご利用ください。パソコン、携帯電話からご覧になれます。（携帯電話のパケット料金にはご注意ください）

※時間：午前10時～午後3時

5月9日(木)	いわき明星大学 大学会館2階 (楢葉町役場いわき出張所)
5月16日(木)	三春貝山多目的運動公園管理棟 (葛尾村役場三春出張所)
5月23日(木)	郡山市南一丁目応急仮設住宅集会所 (富岡町仮設住宅)
5月24日(金)	二本松市平石高田第二工業団地内 (浪江町役場二本松事務所)
5月31日(金)	会津若松市扇町応急仮設住宅集会所 (大熊町仮設住宅)

【問い合わせ先】双葉農業普及所

☎ 0246-24-6044
FAX 0246-24-6142



▲笑いの出前講座



▲伊澤町長あいさつ

3月31日、いわき市総合保健福祉センターにおいて、いわき地区の借り上げ住宅自治会（岡田常雄会長）「いわき・まごころ双葉会」の3月定例会が開催され、約80人が出席しました。

岡田会長のあいさつの後、いわき市在住のユーモアセラピスト植松泰弘氏による笑いの出前講座が行われ、「笑いは百葉の長 爆笑90分」と題した心地よいテンポの爆笑トークの熱演に会場は大きな笑い声に包まれました。トーケの合間にマジックも披露され、忘

れがちだつた心からの笑いに浸ることができたようでした。

不安な日々を過ごされている会員の皆さんには、大いに楽しみ、癒され、明日への活力源となつたようでした。講座が終わると公務の帰路に立ち寄つた伊澤史朗町長から当面の町政運営を中心あいさつがありました。

次回は5月19日にいわき市総合保健センターで「オカリナ演奏会」を開催することを決め、有意義な例会を終りました。

いわき・まごころ双葉会

3月例会

にこにこサロン を開催します

平成25年度の福島県内における介護予防事業「にこにこサロン」は、毎月1回次のように仮設住宅等において開催予定です。おおむね65歳以上の方を対象に、「にこにこ体操」や「折り紙」、「脳トレゲーム」、「ぬり絵」等を通して参加者の皆さんと楽しい時間を過ごします。たくさんの方のご参加をお待ちしています。

平成25年 5月 福島県内仮設住宅 開催予定日

仮設住宅集会所	住所・電話	開催月日	時間
サポートセンター「ひだまり」	いわき市南台3丁目1-1 0246-38-7105(事務所)	5月7日(火)	13:30~15:30
富田仮設住宅	郡山市富田町字町田11-15 080-6290-5927(高野)	5月14日(火) 5月28日(火)	13:30~15:30
喜久田仮設住宅	郡山市喜久田町早稲原字上ノ端54-4 080-6290-5927(高野)	5月2日(木)	
白河仮設住宅第二集会所	白河市郭内151-29 080-6290-5930(芹川)	5月9日(木) 5月23日(木)	13:30~15:30
さくら仮設住宅	福島市さくら1丁目10-1 080-6290-5941(林)	5月14日(火)	13:30~15:30
平野仮設住宅	福島市飯坂町平野字内小原田8-1 080-6290-5941(林)	5月2日(木) 5月16日(木)	13:30~15:30
市民会館・公民館等	住所・電話	開催月日	時間
いわき市常磐公民館	いわき市常磐関船町作田1番地 0246-43-2305	5月21日(火)	11:00~15:00
いわき市勿来市民会館	いわき市錦町上川田21 0246-62-3145	5月28日(火)	11:00~15:00

【問い合わせ先】双葉町社会福祉協議会 いきいきサポートセンター(介護予防事業所)
☎ 080-6033-1199(古室)

町職員の人事異動

平成25年4月1日付けで異動がありました。
（）内は旧職名です。

◆新規採用

△新規採用職員の異動

- ▽ 総務課主事 松本奈々
- ▽ 健康福祉課主事 佐々木理奈
- ▽ 健康福祉課副主査 堤 愛
- ▽ 健康福祉課主事 橋本幸江
- ▽ 教育総務課主査 吉津雄一郎
- ▽ 税務課主事 田邊修一
- ▽ 主任保健師 藤田恭啓
- ▽ 主任保健師 白瀬綾乃

◆福島県派遺職員

△福島県派遺職員

- ▽ 福島県復帰 津島義勝
- ▽ 教育委員会・主幹兼指導主任 阿部裕美

◆昇格・昇任・異動

△昇格・昇任・異動

- ▽ 健康福祉課長兼青年婦人会館長 大住宗重（秘書広報課長）
- ▽ 教育総務課長兼生涯学習課長 今泉祐一（生涯学習課長）
- ▽ 税務課長船来丈夫（課長補佐兼財政係長）
- ▽ 税務課長船来丈夫（課長補佐兼企画課長）
- ▽ 健康福祉課長兼青年婦人会館長 幸田邦弘（課長補佐兼企画課長）

△調整係長兼原子力対策係長
△主幹兼課長補佐兼国保年金係長

△度部政一（課長補佐兼国保年金係長）

△佐兼農政係長志賀睦（課長補佐兼農林土木係長兼農政係長）

△主幹兼課長補佐兼建設管理係長猪狩浩（課長補佐兼建設管理係長）

△課長補佐兼企画調整係長兼原子力対策係長山本一弥（総括主任主査兼福祉介護係長）

△課長補佐兼秘書広報係長板倉幸美（総括主任主査兼秘書広報係長）

△課長補佐兼都市計画・下水道係長主査兼教育総務課・課長補佐兼総務係長橋本仁（総括主任主査兼総務係長）

△課長補佐兼住民係長兼民係長兼戸籍係長池田秀一（総括主任主査兼住民係長兼戸籍係長）

△課長補佐兼農林土木係長関根浩一（総括主任技査）

△課長補佐兼農林土木係長関根浩一（総括主任技査）

△主事白石久美子（幼稚園教諭）
△福島支所）▽教育総務課・主事白石久美子（幼稚園教諭）
△主事森山和久（健

△康福祉課・主事）

△田浩行（産業振興課・主事）

△福島支所）▽教育総務課・主事白石久美子（幼稚園教諭）
△主事森山和久（健

△田浩行（産業振興課・主事）

△アントニー・バラード、
△フイリップ・ジェリーマン

△竹本良一（健康福祉課長兼青年婦人会館長）▽大沼武（税務課長）

△吉田恵子（幼稚園教諭）▽山田吉治（産業振興課・総括主任技査）

△大沼武（税務課長）▽高野憲一（教育

△園専門教諭）▽山田吉治（産業振興課・総括主任技査）

△高野憲一（教育

△園専門教諭）▽山田吉治（産業振興課・総括主任技査）

△大沼武（税務課長）▽高野憲一（教育

△松本 奈々

△佐々木理奈

△堤 愛子

△橋本 幸江

—新規採用職員—



阿部 裕美



堤 愛子



白瀬 綾乃



松本 奈々



田邊 修一



吉津雄一郎



橋本 幸江

双葉町立 小・中学校 教職員の人事異動のお知らせ 敬称略

平成25年4月1日をもって、双葉町立小・中学校の先生方と教育委員会の人事異動がありましたのでお知らせいたします。

長年、双葉町の学校教育及び教育行政にご尽力いただきましたことに対しまして心より感謝申し上げます。

＜双葉南小学校から転出、退職された先生方＞

職名	氏名	転出先
校長	末永 幸弘	大熊町立熊町小学校
教諭	小林 恵美	退職
主事	青木 隆	いわき市立小名浜第一中学校
＜双葉北小学校から転出、退職された先生方＞		
職名	氏名	転出先
教頭	泉田 淳	大熊町立大野小学校
教諭	佐藤 衛	退職
養護教諭	猪狩みゆき	大熊町立大野小学校

お世話になりました

＜双葉中学校から転出、退職された先生方＞

職名	氏名	転出先
教頭	堀本晋一郎	浪江町立浪江東中学校長
教諭	田代美奈子	いわき市立勿来第一中学校



平成25年度 双葉町立小・中学校教職員について 敬称略

このたびの人事異動により、平成25年度の双葉町立小・中学校教職員が次のとおり配置されましたのでお知らせいたします

平成25年度 双葉町立小・中学校教職員名簿

＜双葉南小学校＞

職名	氏名	兼務先
校長	日野 俊隆	いわき市総合教育センター
教頭	高野伸一郎	加須市立騎西小学校
教諭	永野 忠明	福島市立福島第三小学校
教諭	矢内寿美子	福島市立吉井田小学校
教諭	中島 則夫	南相馬市立真野小学校
教諭	林 香世子	いわき市立好間第一小学校
教諭	佐藤 大志	加須市立騎西小学校
講師	田代 美佳	南会津町立田島小学校
養護教諭	白土 裕子	いわき市立平第三中学校
主事	井上真智子	新地町立尚英中学校

＜双葉北小学校＞

職名	氏名	兼務先
校長	松本 浩一	郡山市総合教育支援センター
教頭	藤原 謙	加須市立騎西小学校
教諭	門馬 千玲	福島市飯坂小学校
教諭	猪狩 建	いわき市立平第五小学校
教諭	稻垣 隆一	福島市立鳥川小学校
教諭	皆川 利道	いわき市立菊田小学校
教諭	佐伯 貴子	富岡町立富岡第一小学校
講師	湯田 祥平	南会津町立桧沢小学校
養護教諭	吉田 梨恵	いわき市立泉小学校
主査	江井真由美	相馬市立中村第二小学校

お世話になります

＜双葉中学校＞

職名	氏名	兼務先
校長	荒木 幸子	郡山市総合教育支援センター
教頭	川村 雅茂	加須市立騎西中学校
教諭	菊池 秀則	本宮市立本宮第一中学校
教諭	山田美由紀	二本松市立二本松第一中学校
教諭	高橋 伸一	会津若松市立第二中学校
教諭	松本 涼一	楓葉町立楓葉中学校
教諭	菅野 陽子	いわき市立植田中学校
教諭	三瓶 ゆき	いわき市立内郷第二中学校
養護教諭	青木 寿江	いわき市立平第二中学校
主査	菅野富士子	富岡町立富岡第一小学校
主任栄養技師	佐藤 優美	相馬市立中村第二小学校

教育相談について

お子さんの学校生活や進路などについての相談は、就学先の先生に相談するのが一番良いかと思います。しかし、どうしても相談できない場合は、下記の先生方が相談にのってくださいます。ただし、業務等の都合で電話に出られない場合もございますので、予めご了承願います。

応対者	電話番号
双葉南小学校 日野俊隆校長先生	080-2841-1690
双葉北小学校 松本浩一校長先生	080-2835-6233
双葉中学校 荒木幸子校長先生	080-2835-0162

※相談日時：月曜日～金曜日（祝日を除く）
午前9時～午後4時

予防接種・乳幼児健診のお知らせ

予防接種は感染症を予防する上で、最も有効な手段の一つです。接種もれがないよう計画的に受けさせてください。

定期予防接種

【平成25年度からの変更点】

- ①ヒブ・肺炎球菌・子宮頸がん予防ワクチンの予防接種が定期接種になりました。
- ②BCGの接種時期が1歳までとなり、標準的接種期間が生後5カ月以上8カ月未満になりました。
- ③日本脳炎をすすめていなかった期間に受ける予定だった方へ、積極的勧奨が開始になりました。
(1期:小学1~4年生時、2期:高校3年生時)
- ④麻しん風しん3期(中学1年生)、4期(高校3年生)は平成24年度で廃止になりました。

乳幼児健康診査

○3~4カ月児 ○1歳6カ月児

○3歳児 健康診査

▶避難先市町村で受けてください。市町村によって対象月齢が異なりますので、詳細は避難先市町村にご確認ください。

○その他の健康診査、乳幼児相談について

▶市町村ごとに異なりますので、避難先市町村にご相談ください。



予防接種の種類	対象者 ☆は標準接種時期です	回数	備考
ヒブワクチン	開始:生後2カ月~7カ月未満	全4回 ※3回接種後、追加接種1回	◆福島県内に避難している方 ○医療機関での接種費用はかかりません。医療機関に予約をして接種してください。予診票のない方は送付しますので、ご連絡ください。
	開始:生後7カ月~12カ月未満	全3回 ※2回接種後、追加接種1回	
	開始:1歳~5歳未満	1回	
小児用肺炎球菌ワクチン	開始:生後2カ月~7カ月未満	全4回 ※3回接種後、追加接種1回	○BCGなど集団接種の場合は、依頼書が必要になることがあります。提出を求められた場合は、ご連絡ください。
	開始:生後7カ月~12カ月未満	全3回 ※2回接種後、追加接種1回	
	開始:1歳	全2回	
	開始:2歳~5歳未満	1回	
四種混合 (ポリオ・ジフテリア・百日咳・破傷風)	生後3カ月~7歳6カ月未満 ☆生後3カ月~18カ月	4回	◆福島県外に避難している方 ○避難先市町村の住民と同じ方法で接種することができますので、避難先担当係にご相談ください。
BCG	1歳まで ☆生後5カ月~8カ月未満	1回	○日本脳炎について ○平成7年4月2日~平成19年4月1日生まれで、1期、2期が未接種の方、不足分がある方は、20歳未満の間に接種することができます。
二種混合 (ジフテリア・破傷風)	11歳~13歳未満 ☆小学6年生	1回	○日本脳炎の積極的勧奨の対象者は次の方です。 1期:3~4歳 小学1~4年生相当
麻しん風しん混合	1期:1歳~2歳未満	各1回	2期:高校3年生相当
	2期:小学生就学前1年間		
日本脳炎*	1期:3歳~7歳6カ月未満の方 ☆3歳~4歳未満	全3回 ※2回接種後、追加接種1回	2期:高校3年生相当
	1期措置期間:平成7年4月2日~平成19年4月1日生まれ	不足分の回数接種できます	
	2期:平成7年4月2日以降に生まれた9歳以上の方	1回	
子宮頸がんワクチン	中学1年生~高校1年生の女子	3回	

【問い合わせ先】埼玉支所 健康福祉課健康づくり係 ☎:0480-73-6938

ストレスと栄養



私たちは生活の中でさまざまなストレスを受けています。

ストレスには、たとえば目標や夢などのように、自分を奮い立たせてくれる良い刺激も含まれます。ストレスがないのも体にとってはよくないことなので、うまく付き合っていくのがよさそうです。

ストレスや疲労が続くと、やがて身体の抵抗力も落ちてしまいます。疲れをためにくい体づくりのために、食事を見直してみましょう。

食事でとった栄養を、体内で使えるエネルギーにする際にビタミンB₁、B₂が必要ですが、これらは平均的な日本人の食生活では、1日に摂りたい推奨量に対して不足していることがわかっています。

ビタミンB₁は、玄米、そばなどのあまり精製されていない穀物や、豚肉、特にうなぎに多く含まれ、B₂は、動物性の食品(肉、魚、卵、牛乳など)、納豆やきのこ類に多く含まれます。ごはんやパンだけですませずに、おかずをしっかり食べれば補えます。

ビタミンB群は水に溶けやすく、加熱によって破壊されるため、ゆでこぼすよりも煮る、または、炒める、揚げる方が、食事からとる量を多くすることができます。

また、ストレスがつづくと、体内で活性酸素が多く作られます。活性酸素は、細胞を老化させ、動脈硬化を起こします。活性酸素を除去してくれるビタミンCやビタミンE、βカロテンのほか、さまざまな抗酸化物質が植物性食品(野菜や果物)に含まれています。

ご飯を食べるのがめんどうな時や忙しい時には、おにぎりがおすすめです。

主食とおかずと一緒にとれるような具入りのおにぎりレシピです。冷凍保存も可能です。



簡単レシピ ピーマンのまぜご飯おにぎり



(材 料：小さめのおにぎり2個分)

ご飯180g、ピーマン1個、
ごま油小さじ1/2、ツナ缶20g、
塩・こしょう少々

(作り方)

- ①ピーマン洗って種をとり、1cm角にきざみ、さっと茹でるか電子レンジで加熱する。
- ②すべての材料をまぜておにぎりを作る。

簡単レシピ チーズと枝豆のおにぎり



(材 料：小さめのおにぎり2個分)

ご飯180g、チーズ20g、
枝豆(冷凍でよい) 5~6さや分、
塩・こしょう 少々

(作り方)

- ①枝豆は電子レンジで加熱し、豆を取り出しておく。チーズは1cm位に切る。
- ②すべての材料をまぜておにぎりを作る。

<いろいろなアレンジ>

☆ひじきご飯おにぎり

ご飯とひじきの煮もの(市販のものやおかずの余り)をまぜておにぎりにします。きんぴらごぼう、筑前煮なども使えます。

☆天むす風おにぎり

えびの天ぷら(小2尾)にめんつゆをつけて、おにぎりの具にします。エビフライでも、唐揚げでもできます。

☆魚の缶詰おにぎり

さんまのかば焼きやさば水煮などの缶詰を使って、魚の水気はペーパータオルでふき取り、刻んだ大葉やおろししょうがを加えると、さっぱりした味になります。

L Pガスボンベの元栓閉栓 作業等の実施について

5月中旬から双葉町内の防火対策として、各家庭等の屋外にあるL Pガスボンベの元栓閉栓作業等を実施します。町から委託を受けた社団法人福島県エルピーガス協会（身分証明書携帯）が作業を行います。

作業の際には点検作業員が敷地内へ立ち入りさせていただきますので、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

＜作業内容＞

- ・元栓を閉栓し、養生テープ等で封印する。
- ・転倒、傾倒しているボンベは、直立状態に修正する。
- ・チェーンが外れているものは固定する。

【問い合わせ先】

埼玉支所 住民生活課

☎ 0480-73-6880(代)

双葉町社会福祉協議会から

富田・喜久田事務所移転のお知らせ

双葉町社会福祉協議会では、「双葉町サポートセンター」開設のため、富田及び喜久田事務所を移転することとなりました。

なお、各事務所とも下記日程により相談室として開設いたします。

住所 福島県郡山市喜久田町卸1丁目1番地1
南東北総合卸センター 2階第3会議室
名称 双葉町サポートセンター
☎ 024-973-5291
FAX 024-973-5292

＜事務所開所日＞

○双葉町サポートセンター

月～金曜日（祝日を除く）

午前8時30分から午後5時15分

○富田事務所

月・木曜日（祝日を除く）午前9時から午後5時

○喜久田事務所

火・金曜日（祝日を除く）午前9時から午後5時

連絡先（共通）

024-973-5291（代表）
080-6290-5960（木村）
080-6294-2010（杉本）

※土・日曜日及び祝日の対応につきましては、電話による対応は時間外でもお受けいたします。何かありましたらいつでもご連絡ください。

避難により区域外就学をされている

児童生徒への就学費支援について

双葉町に住所を有している方で区域外就学により、避難先の小・中学校に通学している児童生徒がいる世帯に対し、学用品費、通学費、校外活動費、修学旅行費や給食費などの就学費支援（以下、「支援」という。）を行います。

支援については、原発避難者特例法により原則として通学をしている自治体で実施することになっていますので、支援を受けていない方は、通学先の市区町村教育委員会へお問合せください。

自治体によっては世帯の所得状況などを踏まえ、避難している世帯であっても支援を受けられない場合があります。その場合は、双葉町が認定し支援を行います。

なお、通学先の自治体と双葉町の両方からの支援は、受けることができませんのでご了承ください。

【問い合わせ先】双葉町教育委員会 教育総務課

☎ 0480-73-6843

仮設住宅への入居者募集（継続）

1. 募集物件（4月11日現在）

地区	間取り	募集戸数	住 所
福島市	2K	13戸	飯坂町平野字内小原田8-1
	3K	15戸	
	計	28戸	
	2K	2戸	福島市さくら1丁目10-2
	計	2戸	
郡山市	1K	4戸	喜久田町早稲原字上ノ端54-4 (3Kはペットゾーンのみ)
	2K	8戸	
	3K	1戸	
	計	13戸	
	1K	1戸	日和田町高倉字諏訪前82
	2K	9戸	
	3K	11戸	
	計	21戸	
白河市	1K	2戸	郭内151
	2K	24戸	
	3K	19戸	
	計	45戸	
いわき市	3K	1戸	南台3丁目1-1
	計	1戸	

※3Kは3名以上で受け付けします。

※被災証明または罹災証明の写しを付けてお申込みください。窓口受付時間：午前9時から午後5時まで

【問い合わせ先】福島支所 ☎ 024-973-8090
FAX 024-933-5124

平成25年度 双葉地方広域市町村圏組合職員採用候補者試験

1. 試験職種、採用予定人員および職務内容

試験職種	採用予定人員	職務内容
消防	6人程度	消防業務に従事します。

詳しくはお問い合わせください

2. 受験資格

区分	受験資格
消防	<p>昭和58年4月2日から平成7年4月1日までに生まれた方で、自動車運転免許（普通車以上「A T限定免許を除く」取得者（学歴は問いません）</p> <p>◎身体の基準は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・胸 囲：身長のおおむね2分の1以上であること。 ・視 力：両眼とも矯正視力が0.7以上であること。 ・聴 力：正常であること。 ・その他：精神及び身体に障害がないこと。結核性疾患、その他感染性疾患がないこと。

3. 試験の期日、場所及び発表

区分	期日	時間	試験場	発表
第1次試験	6月9日(日)	○受付 9:00～9:30 ○教養試験 10:00～12:00 ○適性検査 12:10～12:35	広野町 サッカー支援センター内 福島県双葉郡広野町大字下北迫字二ツ沼44-15	6月に双葉地方広域市町村圏組合掲示場、組合ホームページに受験番号を掲示するほか、受験者全員に通知します。
第2次試験	第1次試験合格通知の際にお知らせします。			
				第2次試験の時にお知らせします。

4. 申込締切 5月31日(金)

(ただし、土曜日、日曜日及び祝日を除く午前8時30分から午後5時15分まで)

※郵便による申込書提出の場合は、5月29日(水)までの消印のあるものに限り受け付けます。

【問い合わせ先】双葉地方広域市町村圏組合 ☎ 0240-27-4665

J A ふたばからの お知らせ

J A ふたばでは、第15回通常総代会を開催することにいたしました。
総会に先立ち、下記により地区別座談会を開催いたしますので、お気軽にご出席ください。

<地区別座談会開催日時及び場所>

地区名	開催日時	開催場所	住所
福島	5月9日(木) 午後1時30分	パルセいいざか	福島市飯坂町字筑前27番地の1
川内	5月13日(月) 午後1時30分	J A ふたば川内支店	双葉郡川内村上川内字町分106番地
広野	5月15日(水) 午前10時	J A ふたば広野支店	双葉郡広野町下北迫字苗代替1番地の1
いわき	5月15日(水) 午後2時	いわき産業創造館 (ラトブ6階)	いわき市平字田町120番地
会津	5月16日(木) 午前10時	会津若松市文化センター	会津若松市城東町14-52
郡山	5月16日(木) 午後2時	福島県農業総合センター	郡山市日和田町高倉字下中道116

【問い合わせ先】J A ふたば総務部 ☎ 024-554-3095

福島県からのお知らせ

原子力損害賠償に係る

巡回法律相談のご案内

福島県では、福島県弁護士会と連携し、弁護士による対面の法律相談を実施しております。相談料は無料ですので、請求手続きにおける不明な点などお気軽にご相談ください。

なお、事前予約制としておりますので、右記までご連絡いただきますようお願いいたします。

巡回法律相談実施予定 5月～6月

事前予約受付番号 ☎ 024-523-1501

(原子力損害の賠償等に関する問い合わせ窓口)

○受付時間：午前8時30分から午後5時15分（平日）

○相談時間：30分

(午前1時30分から午後3時30分の間に実施)

○相談料：無料

○実施場所：福島県内9市町

実施市町村	実施日	実施会場（所在地）
福島市	5月29日(木)	福島県青少年会館 1階第6研修室 (福島市黒岩字田部屋53-5)
二本松市	5月22日(木) 6月19日(木)	福島県二本松合同庁舎 2階会議室 (二本松金色424番地の1)
伊達市	5月15日(木) 6月12日(木)	福島県伊達合同庁舎 1階会議室 (伊達市保原町大泉字大地内124番地)
郡山市	5月15日(木)、22日(木)、29日(木) 6月12日(木)、19日(木)、26日(木)	福島県郡山合同庁舎 第4会議室 (郡山市麓山1-1-1)
白河市	5月9日(木)、16日(木)、23日(木) 6月6日(木)、13日(木)、20日(木)	白河商工会議所 会議室 (白河市道場小路96-5)
会津若松市	5月7日(火)、14日(火)、30日(木) 6月6日(木)、17日(月)、27日(木)	福島県会津若松合同庁舎 本館3階地域連携室 (会津若松市追手町7-5)
南会津町	5月22日(木) 6月12日(木)、26日(木)	福島県南会津合同庁舎 4階会議室 (南会津町田島字根古屋甲4277-1)
南相馬市	5月9日(木)、16日(木)、23日(木) 6月6日(木)、13日(木)、20日(木)	福島県南相馬合同庁舎 北庁舎1階県政相談室 (南相馬市原町区錦町1-30)
いわき市	5月7日(火)、13日(月)、21日(火) 6月11日(火)、18日(火)、26日(木)	福島県いわき市合同庁舎南分庁舎 3階中会議室 ※5月21日は4階大会議室 (いわき市平字梅本15番地)

避難先での営農再開について

双葉町では、避難先で営農を再開された皆さまへ支援、情報提供等を行っております。避難先で営農再開をされた方、また、これから避難先での営農再開を希望している方がおりましたら、右記までご連絡ください。

【問い合わせ先】
埼玉支所 産業振興課 農政係
☎ 0480-73-6880(代)





双葉の風たより

全国に避難されている皆さんから寄せられたお便りやメールの一部をご紹介いたします

「双葉町民の歌」CDに多謝

届いたCDを何回も聴き、懐かしさで涙が止めどなく流れました。

故郷、双葉は片時も忘れたことがないだけにCDを聴き、双葉でのいろいろな思いが走馬灯のように頭をよぎり、胸がいっぱいになりました。

特に町民体育祭で「双葉町民の歌」を歌った時の光景が昨日のように思い出されました。

どんな偉い方の慰めの美辞麗句より、1枚のCDが大変な心の癒しになり、避難生活も2年を経過し、帰るあても見えずともすれば、めげそうな気持ちになりがちだった昨今、CD「町民の歌」を聴き、口ずさみ、懐かしさに浸りながら、物品よりも大切な心を見失わないように気高く、明日へ向け前進できそうです。

最大の慰めとなりました。ありがとうございました。

3月吉日

双葉町をこよなく愛する一町民より

ここ数日、暖かな風が吹き一気に春爛漫の状況です。

過日はCDのご送付本当にありがとうございました。5月に入り今頃は田植えが始まった頃でしょうか。色々なことが思い出されます。

まずは皆さまお元気にて少しづつ進み復興へつなげることかと存じます。去る3月30、31日は「福玉バス」に乗せられ、会津を訪ねご無沙汰していた人たちに会ってきました。寒くとも皆さん元気で、見習うべきと思いました。

まだまだ不安定な時期ですので、くれぐれもご自愛の上、私たちのためにご尽力くださるようお祈り申し上げます。

佐々木美子（長塚一）



皆さまからのお便りを募集しています。現在の生活の様子、避難先の地域のこと、町民の皆さんに伝えたいことなどなんでも結構ですので、皆さまの声をお寄せください。

【問い合わせ先】

秘書広報課 秘書広報係
☎ 0480-73-6880(代表)

避難所で生活をしている皆さん。双葉町での楽しい思い出は残っていますか。ダルマ市や各地区での夏祭り、町民体育祭などたくさんありましたね。もっとたくさんの思い出をつくりたいですよね。

そのためにも帰れることを信じて一日一日を大切にしていきましょう。

高田華奈江 12歳（郡山）

隨想 時の流れに

お彼岸も過ぎ、避難生活も早3年目を迎えました。まさに「光陰矢の如し」時の流れの速さを実感させられる今日この頃でございます。

さて、この度は「双葉町民の歌」CDのご送付をいただき、本当にありがとうございました。CDを再生して、懐かしい「ふるさと双葉」の在りし日の風景がまぶたに浮かび、目頭が熱くなるのを感じ、自然に感極まるのを禁じえませんでした。

そのうえ、「いつの日か再び帰れる日が来ますように」と、夢のような想いは一層強くなりました。

3月 須賀川市にて

古室 仁（浜野）

「学び舎の 窓に聳えた 無線塔

姿懐かし 夢の如くに」

※昭和23年頃の風景でした。

双葉の里 風味三昧

郷里の味	春の足音に心も和む季節です。異郷にて二年余り、そぞろ	小春日和に	つい誘われて
偲んで泣くか	偲ばれるのは郷里の風情です。四季折々の味覚、田舎ならではの風味が想い出されます。せめて文字で日々を揃え種々味	ワラビゼンマイ	ウド
腹の虫	を思い浮かべて郷里を偲び思わず生ツバを飲み込むこともあります。	落ち葉踏み分け	もろ肌受けて
	春の足音に心も和む季節です。異郷にて二年余り、そぞろ	浜の松風	酒は白富士
	偲ばれるのは郷里の風情です。四季折々の味覚、田舎ならではの風味が想い出されます。せめて文字で日々を揃え種々味	落ち葉踏み分け	暑氣払い
	を思い浮かべて郷里を偲び思わず生ツバを飲み込むこともあります。	炬燵囲んで	栗や茸のお出迎え
	春の足音に心も和む季節です。異郷にて二年余り、そぞろ	倉庫にや	「ヒトメ」と「コシヒカリ」
	偲ばれるのは郷里の風情です。四季折々の味覚、田舎ならではの風味が想い出されます。せめて文字で日々を揃え種々味	双葉の里は	
	を思い浮かべて郷里を偲び思わず生ツバを飲み込むこともあります。		

武内 恒雄（長塚二）





ふ
る
さ
と

き
ず
な

通
信

双葉町を忘れない

平成23年3月11日に発生した東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故により、私たち双葉町民はふるさと双葉町を離れ、今もなお全国に分かれて避難生活を送っています。

先の見えない不安な生活の中で、町民の皆さんのが毎日をどのような思いで過ごし、ふるさと双葉町への思いを抱き続けているのかを、皆さんのお声をお聴きながら「ふるさと絆通信」として連載していきます。

そして「ふるさと絆通信」を通して、皆さんの双葉町への思いと心の絆がより一層深まるこことを期待いたします。



くぎの ゆういち
釘野 雄一さん
 (長塚一)

●避難先●
福島県白河市

**ふるさと
糸通信**



私が双葉町を離れたのは、全町民避難が一通り完了した3月12日の夕方でした。夕闇が深まる中、人の息遣いが消えた街。西へ向かう車中から見た町並を決して忘れることはありません。

震災発生当時、私は店舗兼自宅の旧国道に面した店舗内におりました。長く大きな揺れに身動きすら取れずについたその時、その店舗部分が倒壊。私はそのまま下敷きになつてしましました。しばらくして、ここから出なければと必死に叫び、向いにある神社の宮司・高倉さんが私に気づき、ちょうど神社の周辺に避難していたJAふたばの職員の皆さんをはじめ、周囲の方々のご協力により救出されました。救出後早速、消防団長（当時）としての職責を果たすため、役場へと向かいました。途中、町内には私の自宅同様大きく損壊した住宅があり、中には人が閉じ込められたところもありました。その日は深夜まで災害対策本部（役場）で、地震や津波による要救護者支援や行方不明者捜索などの指揮にあたりました。

翌朝、避難指示が出されたため、町民の避難誘導にあたりました。多くの町民が避難を終えようとした午後3時半頃、役場庁舎の方から衝撃音が聞こえました。後にマスクや防護服が配布され、それが原発の爆発によるものと知らされました。同日夜、避難場所がある川俣町に到着後に受けたス

クリーニングでは服や体の除染が必要となり、処置を受けるとともに、着替が無い中、上着を廃棄させられましたが、兼ねてより交流のあつた川俣町消防団の佐藤団長より衣服の提供を受け、しのぐことができました。その後、私たち夫婦は県内外の親類のもとを経て一昨年7月から現在の借上住宅で生活しています。一時、西日本に避難していた娘と孫も今は近所におります。90歳を超えた義母は避難による移動中、体調を崩したこともありましたが、現在は茨城県内の施設で元気に暮らしています。

県外への避難で、千葉県印西市に4ヶ月ほど滞在しましたが、消防団長の任期中（平成23年3月末で任期満了退任）は、多くの皆さんのが避難していたさいたまスーパーアリーナに毎日通つておりましたが、被災直後には気付かなかつた下敷きになつたときのケガにより痛みを抱えながら、乗り換えを含め片道2時間の電車での移動は辛いものでした。こちらでの生活が始まつて約1年半、私は被災時に受けたケガのリハビリを続けながら、各地の仮設住宅にいる知人を訪ねたり、近所に避難している方々を呼んで、お茶や食事を交わしながら交流を図っています。妻はグラウンドゴルフや婦人会活動、各種生涯学習講座などに通つています。かつてのようにはいきませんが、なるべく内にこもらないように日々を過ごしています。



にしうち たかお
西内 隆夫
 ヒテ さん
 (長塚一)

●避難先●
 福島県郡山市
ふるさと
絆通信

昨日3月11日午後、私は自宅で国会中継を見ていました。すると、画面に緊急地震速報が表示されて間もなく地震の揺れが始まりました。過去の経験では間もなく終わるかなと思った頃、終わるどころか揺れが大きくなるばかり。そんな中、サッシが飛び、天井から照明が落ちてきました。身の危険を感じどうさにこたつの天板で身を守りました。屋外にいた妻は無事でした。その夜は、避難場所となつたヘルスケアふたばで一夜を過ごしました。翌朝、避難指示が出されたため、自宅の駐車場にあつた息子の車を動かそうとしましたが、地震で地面が液状化のような状態になりタイヤが埋まって動かせず、別の車で、私たち夫婦は近所の一人暮らしの方2人とともに出発しました。途中、燃料を入れるために立ち寄ったガソリンスタンドで見た防護服にマスク姿の警察官の姿に事の重大性を認識させられましたが、九州・福岡まで日本列島を縦断する避難の始まりとは想像もできませんでした。

ほとんど持ち物も無くサンダル履きのまま、川俣町内の避難所へと向かいました。その後移ったさいたまスープアリーナで南相馬市内から避難してきた長女夫婦と合流し、群馬県内の福祉施設へと移り数日間過ごしましたが、福岡県古賀市に住む次男から受入準備が整つたと連絡があつたため、3月23日、長男、長女夫婦ともに福岡に向かいました。同市では県営住宅が提供され、市を挙げ

て支援してくれました。地震や原発からは遠ざかつたという安心感がある反面、心にはぽつかりと穴があいたような感じでした。そんなとき、古賀市長竹下司津男さんが励ましの声を掛けてくれ、それが大きな支えになりました。また、同地で、長女の夫が就職、長男は福祉ボランティアにあたりました。

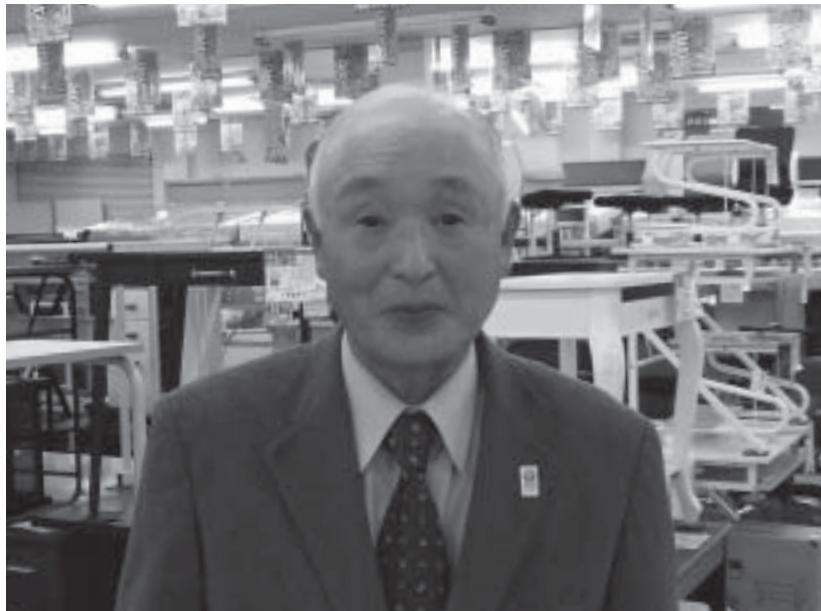
約4カ月間福岡で暮らし、郡山市内へと移つてきました。長男は郡山市内でケアマネージャーとして働き、私たちを呼び寄せた次男は偶然にも福島市内に転勤になり妻を残して単身赴任、長女は南相馬に戻り仕事を再開したため、その夫は福岡に単身赴任の状態と、避難によってできた縁と偶然が重なり現在に至っています。次男は頻繁に私たちのところに訪ねてきます。

町を離れてはや2年、一時立入りの度に朽ちていく我が家と町の姿には言葉もありません。今暮らしているところは、国道288号線の始点に隣接しています。この道の先には「故郷ふたば」がある。そうした望郷の念に駆られることもしばしばです。私たち夫婦は長女がいる南相馬を頻繁に訪れます。親類も多く、同じ相双というせいもあって心が落ち着きます。避難開始当初は帰還への希望もありませんが、今となつてはそれも叶いそうにありません。今後は南相馬など、ふるさとのにおいを感じられるところに落ち着いて、生活したいと思っています。

株式会社 まつもと
代表取締役会長
まつもと さだお
松本 定雄 さん
(下条)

ふるさと
紳通信

●避難先●
福島県相馬市



東日本大震災で双葉町内の3店舗（家具・百円ショップ・ギフト）ともに被害を受けました。翌日から復旧作業かと思っていましたが、翌朝に出された原発事故による避難指示により、手つかずの状態を余儀なくされてしまいました。

私は妻と移動手段が無い近所の方とともに車で避難しました。川俣町、妻の実家や支店がある相馬市、弟が暮らす郡山市を経て、川崎市内で医院を開業している長男のもとへと向かい、約4ヶ月間滞在しました。

被災から約2週間相馬の店舗は休業していましたが、お客様の声もあり、3月下旬には営業を再開しました。その後、双葉の店舗に立入した社長である次男・光典から店舗、倉庫、自宅とともに放射線量が高く、商品は持ち出せないとの報告を受けました。明治8年、呉服屋として産声を上げた「創業の地」を失ってしまうのかと落胆しましたが、「先祖から次男を含め5代にわたって培ってきた信用や信頼を生かしていきたい」「共に避難している町民の皆様、特に事業者の皆様の励みにもなる」と思い、まず県内での新規出店を目指しました。多くの物件をあたりましたが、「帶に短し櫛に長し」と希望に合う物件には巡り合えません。そこで、相馬からほど近い東北の商都、人口105万人を擁する大都市・仙台市で物件探しを始めました。あるとき、

B 家具・アウトレット
ABCマツモト相馬店
福島県相馬市馬場野字雨田35-1
電話 0244(35)1511
FAX 0244(35)1505



仙台富谷店の様子
(開店初日・セレモニー中)

た。市場として有望な反面、競争も激しい地域です。しかし、これも一つのチャンス、仙台進出は東北の商人としての夢。そんな思いで親子で腹を据えました。そしてついに昨年7月14日、仙台富谷店を開店。記念セレモニーには、双葉町長（当時）・商工会長や地元富谷町長・商工会長をはじめ多くのお客様に駆け付けていただきました。

震災の発生から2年が経過し、私たち夫婦は相馬市内に居を構えました。できることなれば震災前のように双葉に戻り生活したいと希望しますが、現実を見据えながら、息子や孫たちとともに、新しいチャレンジを続けたいと思っています。

ぼくの夢・わたしの夢



双葉北小学校6年 小林 愛佳さん
(現在:埼玉県加須市立騎西小学校)

私の将来の夢は音楽の先生になることです。

私は双葉北小学校で3年生の頃からプラスバンドをやっていてパーカッションを担当していました。それまではあまり興味のなかった音楽が好きになり、ずっと大人になっても音楽を続けたいと思ったからです。

避難先の騎西小学校にはプラスバンドはありませんが、クラブ活動で友達と一緒にリコーダーを吹いたり、歌を歌ったり楽しく音楽の活動をしています。

これからもがんばって音楽の勉強をして、将来は子ども達みんなから慕われる明るい元気な音楽の先生になりたいと思います。

温かいご支援をありがとうございます



▶4月1日、埼玉県加須市関根モース関根仲緒様より乗用車2台をいただきました。



島田弦真くん(3歳)と
お母さんの真理さん(新山)

お兄ちゃん、お姉ちゃんに負けない
やんちゃ坊主です。

▲現在、神奈川県綾瀬市にお住まいです。



◀4月3日、ライオンズクラブ国際協会3301-C地区様より義援金をいただきました。

双葉町民の避難状況

(平成25年4月1日現在)

- ・福島県内に避難されている方 3,755人
- ・福島県外に避難されている方 3,181人

一福島さわやか行政相談キャンペーン

5月1日(火)～31日(金)

双葉町は全町民が避難中であるため、行政相談所の開設はいたしませんが、相談事等がありましたら、下記までご相談ください。

福島行政評価事務所 ☎024-534-1101

双葉町では、町民の皆さまの**所在の把握**を行っています。これまで滞在されていた場所から移動された場合や借り上げ住宅、仮設住宅等に移られた場合もご連絡をお願いいたします。

○総合受付 コールセンター 0120-455-770

埼玉支所 〒347-0105

埼玉県加須市騎西598-1 旧騎西高校内

☎ 0480-73-6880 FAX 0480-73-6926

✉ saitama@town.futaba.fukushima.jp

福島支所 〒963-8024

福島県郡山市朝日一丁目20番2号

☎ 024-973-8090 FAX 024-933-5120

✉ fukushima@town.futaba.fukushima.jp

○双葉町公式 臨時サイト(災害版) <http://www.town.futaba.fukushima.jp/>
ホームページ 臨時モバイルサイト(災害版) <http://www.town.futaba.fukushima.jp/mobile/>

連絡先